

さいたまコープの環境の取り組み報告



2007年8月1日
さいたまコープ
齊藤 真澄



さいたまコープ®

さいたまコープの概要

□ 理念



□ 生活協同組合

組合員の願いを事業として実現する。
協同の取り組みで実現していく。

事業では

- 組合員 73万世帯
- 事業高 1,095億円
- 出資金 218億円
- 53店舗・17配送センター
- 共済・保険、介護事業、旅行サービスなど
- コープネットグループに参加し、一都七県の生協と共同の事業を進めています。



組合員の様々な取り組み

- 食のとりくみ(食の安全と食育)
- 暮らしのとりくみ(たすけあい・消費者行政)
- 平和と環境のとりくみ(ユニセフと環境)

産地工場見学 6651人
生産者との学習会 1752人

たすけあい 11500時間



環境に配慮した商品の開発普及

- 新規開発は17品目 供給の3.3% 143億
- 6月の環境月間
Wエコキャンペーン
「選んでエコ」+「寄付
してエコ」の Wエコ
キャンペーンで供給
の1% 150万を環境
保全団体に寄付
- エコマーク商品の普及
を「日本環境協会」とと
もにとりくみ1172名参加



レジ袋の削減

- 2006年の削減枚数1164万枚 削減率45%
レジ袋募金1086万円
- 2007年5月
狭山台店・上広瀬店で有料化実験(代金箱方式)。持参率69%と98%に。

狭山市と協力して



温暖化防止の取り組み

□ 温暖化防止自主行動計画

(目標 2002年度対比で供給点数原単位95.9%以下)

2002年度対比で95.5%

ESCO事業実施による抑制と供給伸張で達成

□ 今後の取り組み

原単位 1億円に変更

宅配事業は「特定事業者」として5年間で5%削減

店舗は環境施設基準にもとづく新店づくり

物流生産施設は省エネルギー法改正に伴い第一種工場に指定された桶川エリアを中心に5%削減

廃棄物・リサイクル

- 事業系廃棄物の再資源化率 77.5%
- リサイクル資源回収量

飲料用紙パック	306トン
ペットボトル・容器	329トン
カタログなど用紙	2210トン
宅配内袋	98トン
発泡トレイ	60トン

環境コミュニケーション

- ブラックイルミネーション(6月18日)
5店舗で20時から22時まで消灯しました



組合員の様々な取り組み 環境募金

- レジ袋を利用する際にお願いしている環境募金を活用し、2006年度は11の環境保全団体に219万円の助成を行いました。
- また「さいたま緑のトラスト基金」に100万の寄付を行いました。



エコライフDAY

7月7日 「エコライフDAY埼玉」の取り組みに連動して店舗や宅配で、協力をよびかけました。14113世帯が参加し、15470kgのCO₂を削減しました。

参加者からの声

こどもの頃からエコライフを身につけさせれば、大人になったときに地球にやさしい人になるだろうなとおもった。



子ども環境教室

7月23日(月)、コープ深谷店コープメイトにて『子ども環境教室 お店探検とマイバッグ作り』が行われました！大人8人、子供22人で身近なところからできる環境への取り組みについて考えました。お店探検の後にはクレヨンやスタンプで自分だけのオリジナルマイバッグを作り、最後に修了証をもらいました。06年度は14店舗で394人が参加しています。



飯能・名栗エコツアーリズム

- 3月27日に飯能市と西南エリア会の共同企画で、親子30名が里山のくらしを体験しました。エコツアーガイドのご指導で、じゃがいもの種芋植付け、蓬をつんでよもぎもちづくりなど春の里山を楽しみました。



秩父の森 環境保全

- さいたまコープ参加者全員で、自然環境を守るため竹林の間伐がなぜ必要なのかを学び、間伐や竹細工(竹箸、竹コップ)で汗を流し楽しい時間を過ごしました。お昼には、NPO法人食育研究会 MoguMoguのご協力もあって、掘りたての筍を汁物にしたり、焼き筍にしたりで皆さんで舌鼓を打ちました。



- 地球温暖化防止の視点で考えたとき、事業と活動 2つの場をもつ生活協同組合として、事業部門はもちろんのこと、民生(家庭)部門の数値をどう動かしていくのか、果たすべき役割は大きいと考えます。
- 自然を愛すること、生き物や植物を大切に育てること、食べることは命をいただくこと。
こうした想いが地球を大切にする行動に結びつくと考えています。様々な参加のひろがりをとうして、楽しく、柔らかく、伝えていきたいと思えます。
- ご清聴ありがとうございました。



さいたまコープ®